

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年4月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4590100204		
法人名	有限会社ゆたか		
事業所名	グループホームゆたかの郷		
所在地	宮崎県宮崎市高岡町小山田65番地4 (電話) 0985-30-9750		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年3月13日	評価確定日	平成21年4月30日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市内中心部から西へ20分程、国道から少し入り込んだ所にあり、落ち着いた雰囲気の二階建てで、一階がグループホーム、二階はデイサービスになっている。隣には同法人の有料老人ホームがあり、職員の勉強会も行っている。道路を挟んですぐ前には、町営の体育館や事務所、郵便局があり、裏側には病院があるなど、緊急を要する場合にでもすぐ対応できる場所にある。地域との交流も盛んに行われていて、利用者との外出時にもあいさつがどちらからともなく交わされる。自治会に加入しており自治会の会議や行事、公民館、神社の清掃にも利用者とともに参加している。利用者を地域住民の一人として、手厚く全職員で支援を行っているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 設立が平成19年で、今回が初めての評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） サービス評価の意義を法人代表者、管理者、全職員が理解している。今回の自己評価に対しても何度も話し合いを重ね、改善点を確認している。外部評価も、今後のサービスの向上に反映させ、ホームの充実を図る意欲が全職員に見受けられる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み 利用者代表、家族代表、地区の代表、公民館長、民生委員、地域包括支援センター、施設長、事務長、職員の参加の下に会議が行われているが、ほとんどがグループホーム内の行事の報告や伝達事項になっている。管理者、職員は地域とともに、利用者を支援していくことを強く望んでおり、それに向かっての意欲が随所に見受けられる。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7、8） 家族との話し合いを中心にして意見や苦情、不安を受け入れたり、利用者の状況を便りや来訪時に細やかに家族に報告している。家族から受けた意見や苦情は、全職員で話し合いの場を持ち真剣に取り組んでいる。
重点項目	④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 自治会に加入しており、公民館や神社の掃除はもちろん、地域内で行われる作業や（花植え、草取り）行事（夏祭り）に利用者とともに参加して、地域にとけ込んでいる。グループホーム内で行われる誕生会等には、地域の方々に来てもらっている。近所から野菜をいただいたり、ホームで作った物を届けたりと交流は深い。

【情報提供票より】（平成21年2月20日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成19年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤8人、非常勤1人、常勤換算6.75人	

（2）建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	23,000 円	その他の経費（月額）	実費 円
敷金	有（ 円）	（無）	
保証金の有無（入居一時金含む）	有（ 円） （無）	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

（4）利用者の概要（平成21年2月20日現在）

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	1	要介護2	4
要介護3	2	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 84.55歳	最低 77歳	最高 91歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人慶明会けいめい記念病院
---------	-----------------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者を地域の一人の住人として穏やかに過ごせるよう生活を支えている。家族のような心のふれあう、ともに笑顔で過ごせるようなケアを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、実践に向けて管理者、職員ともに懸命に取り組んでいる。	○	日々努力し利用者を支えているが、理念を確認し合う場が少ないように思われるので、朝礼の際にでも確認を望みたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設2年目ではあるが、自治会に加入し、冠婚葬祭などの対応をしたり、自治会内の公民館や神社、地域の草取りや夏祭りなど、さまざまな活動に積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設2年目ともなり、今回の評価をしんしに受け止め、これからの取り組みに生かしたいという思いを強く持っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域住民、民生委員、利用者、地域包括支援センター、施設長、職員などが参加し実施している。現在、グループホームの報告と伝達事項が主な会議内容になっている。	○	地域を熟知している方々の意見・要望を取り入れながら、今以上に交流が密になるよう、全職員で話し合う場を作り、2か月に1回以上の会議開催を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター主催の勉強会に参加している。 市との連携は今のところ、あまりない状況である。	○	今後、更なる向上のためにも、運営推進会議等に参加を依頼し、市町村との連携を密にすることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、買い物をした請求書と一緒に、利用者の生活の様子を書き示した物を添えて郵送している。また、来訪時にも細かに報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理が運営規程にも設けられている。家族にも常に声かけを行い、話せる機会を設け、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人内にて、各施設での職員の固定化をはかり、なじみのケアに気を配っている。交代する場合にも、利用者にしっかり説明し、早くなじめるように工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームの全国大会に参加したり、職員を何回かに分けて他事業所の見学に行くようにしている。また、新職員にも研修の機会を与え、利用者へすぐ反映できるよう復命書もしっかり作り、全職員が目を通し捺印している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と連携を取り合い、他事業所にも見学に行き、得た情報を利用者に反映できるよう勉強会を行っている。そのほか、協力医とも連携を取り、勉強会を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と職員の間には常に笑顔がある。本人と家族が納得したうえで安心した生活が共有できるよう、全職員の努力が見受けられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からの話を良く聞き、個人の生活歴を多く取り入れ、全職員が尊敬の念を持って接しており、本当に和やかな場が展開されていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と職員の会話の中にも、何か要望はないかを聞き取る姿勢が見受けられる。会話の中から得た情報を共有できるよう勉強会も行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を採用しており、利用者が穏やかだったり、笑顔の多い時を把握しプランに取り入れている。寄り添いながらそれぞれに反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを行い、必要に応じたプランの見直しをしている。安定しているような状態に見える利用者の場合であっても、月1回程度は、新鮮な目で利用者本人や家族の意向、状況を聞いている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じ、その人に合った支援をしている。帰るコールの強い人を職員が車いすを押し、笑顔で話しかけながら散歩に連れて行ったり、家族と相談して1泊のみの帰宅など、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医との勉強会の場を持つたり、定期受診には、利用者の細やかな様子を記入した記録簿を活用し、日常の様子を報告している。協力医には認知症専門医もいて、細やかな支援もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	カンファレンスで十分話し合い、訪問看護や訪問診療などの体制づくりを行っている。また、法人の事業所で10例ターミナルケアを経験していることから、そのたびに行われる勉強会に職員も参加し、家族の意向もしっかり聞いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	一人ひとりの生活歴も取り入れ、全職員で心掛けています。また、事業所内の写真にも気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や要望を把握し、それに寄り添って全職員で細やかに支援している。買い物や散歩など、配慮しながら柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓を囲み和やかな雰囲気である。利用者の好みを聞き、しっかりとした献立の元に新鮮な材料を使って料理している。準備や後片づけも利用者と職員が一緒に支え合い、また、楽しみながらの食事をしている。職員も同じ食事を同じテーブルでとっている		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金の週3回の入浴日になっている。失禁者や、汗をかいた人にはそのつど対応している。	○	曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援できるよう期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を生かして料理の作り方や、漬け物の漬け方を教えてもらったり、日々の生活では、張り合いが持てるよう支援している。買い物、散歩、役割等の気晴らしの支援の力は大きい。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	グループホームの中だけで過ごすことのないように買い物、散歩はもちろん、近所の公共施設の見学や地区行事への参加等を絶えず心掛けている。年に幾度かは、家族も交えて利用者全員で市内に食事に行っている。管理者、職員の努力が十分に発揮されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	これまでに2度程、職員が気づかないうちに利用者の方が外出されており、地域の方から連絡が来たり、事務所に来てくださったことがあり、現在は鍵をかけている。	○	鍵をかける方向に目線を置くのではなく、見守りを徹底し利用者の様子を管理者、全職員で把握することに重点を置き、自由な暮らしを支援できるよう期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地区の公民館活動に参加し、地域との交流も密にしている。地域の防災訓練にも参加し、災害時の防災計画に沿って地域との避難訓練を行っている。災害時には、二階のデイサービス利用を地区に呼びかけ喜ばれている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表に基づいて、新鮮な材料を使ったバランスの良い食事である。職員も同じ食事をしている。水分も摂取量をチェック表に記入している。利用者の好みを取り入れ、体調に合わせてきざみや、ペースト食を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居室には季節の花が生けてあったり、手作りの飾り物があり心を和ませる細やかな心配りが見受けられる。どの部屋も隅々まで掃除が行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談をしてなじみの物を使ったり、購入している。タンスの上には家族の写真やなじみの小物が飾ってあり、本人が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。ご家族のお位牌を置き、食事から部屋に帰られた時も手を合わせられる姿があった。		

※  は、重点項目。